キャラクター名: エンバー

プレイヤー名:

シンドローム	バロール ウロボロス	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	旅人
オプショナル		年齢	外見年齢20歳前後	性別	男性格
覚醒	無知	衝動	妄想	初期侵食率	41 %
出自	地球外生命	経験	旅	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	2	0	0			2
精神	4	1	0			5
社会	1	0	0			1

HP	48
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1	1	調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
応急手当キット	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
想い人	P	N		
“イブ”	P 全て	N 疎外感		
人間たち	P 友情	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P：	1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ヒューマンズネイバー	1	基5	常時	至近	自身	自動	RB	
効果：	衝動判定ダイス+LV個							
オリジン:ミネラル	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：	シーン間装甲値+[LV×2]							
ｺﾝｾﾝﾄﾚｲﾄ:バロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV(下限値7)							
黒の鉄槌	3	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：	射撃攻撃/攻撃力+[LV×2+2]/同エン不可							
紡ぎの魔眼	2	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	判定直前使用/ダイス+LV個							
グラビティテリトリー	3	基4	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	最大HP+[LV×7]							
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80↑	
効果：	イニシアチブでメインプロセス/HP20点消費/行動済みにならない							
原初の黒:拡散する世界	1	10+2	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	対象:シーン(選択)、射程:視界に/HP20点消費/対象のメジャー宣言時							
黒星粉砕	5	4D10	メジャー	視界	範囲(選択)	自動	120↑	
効果：	対象に[LV+5]D点のHPダメージ/リアクション不可							
魔王の玉座	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	重力を操作し空中を浮遊して行動する							
軽快なる積荷	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	荷物を重さを感じず持ち運ぶ/宙に浮かせる							
偏差把握	★	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果：	物体の位置や移動ベクトルを把握する							
道化の出し物	★	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果：	エフェクトの外見を他のエフェクトに偽装する							

○出自
10年ほど前、宇宙を廻る小惑星が地球に引き寄せられ、流星となってその身を燃やしながら、小さな小さな隕石となって地球に落ちた。そんな燃え残り(ember)が彼のオリジンである。
オリジンがあまりにも小さく弱々しい存在だったためか自我がうまく形成できず、当てもなく彷徨っていた夜、彼は彼女――イブと出会った。響き渡る彼女の歌と、星空の下歌う彼女の姿は、ぼんやりとだが、今も記憶の中にある。
それからだんだんと自我が生まれていき…気付いたら、人間社会で、彼女と共に過ごすようになっていた。それはとても――幸せな日々だった。

○性格
20歳前後の見た目をしながら、子供のように純真な性格をしているレネゲイドビーイング。見たものを見たままに受け止めて感じ、それを吸収して学ぶ。だからこそ彼は――イブの近くでずっとイブのことを見ていた彼は、少年のように目を輝かせて人間のことを学び、人間たちとその生活を心の底から愛した。イブと旅をする中で、彼女の行動を模倣して身につけた結果、異常な速度で「人間らしいレネゲイドビーイング」となり、人間社会に馴染んでいった。
その根底には彼の「人間になりたい」という欲求が結びついている。イブが愛する人間という存在になれれば、きっと彼女にもっと近づけるから。そんな幻想を盲目的に信じているのだ。

○“イブ”について
彼女に対する感情を表す言葉をエンバーは知らない。きっと誰にもそれを表すことはできない。ただ一つ言えるとしたら、「きみはおれの全てだ」という言葉だけだろう。

○一年前の事件と、現在まで
一年前、彼女はこう言った。「世界で一番空に近い場所って知ってる？ 来年、そこで沢山の流星を見られるんだって。一緒に見に行こう」と。
流星。もとは自分と同じ存在。それをこの目で見てみたかった。そして何より、彼女の好きなものを、彼女の隣で見られることが、何よりも楽しみだった。
――けれど、その約束は叶わなかった。